

平成30年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

平成30年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金実施要領」(平成28年4月1日付け27農振第2326号農林水産省農村振興局長通知)別紙3の第7の1の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			H29	H30	H31		
山形県	小国町	小国町	●	●		A	関係団体と連携し、住民を巻き込みながら、積極的な事業展開がなされている。 継続的な事業実施により、平成32年度の数値目標達成のために着実な成果が上がってきている。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金実施要領別紙3の第7の1の規定に基づき、第三者である下記の者から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科 客員教授 勝瀬典雄、山形銀行 小国支店長 長沢伸一、山形中央信用組合 小国支店長 竹田淳

【意見聴取の概要】

平成31年4月25日に評価委員会を開催し、事業実施主体から、事業計画、事業実績を説明し、意見の聴取を行った。

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	小国町	事業開始年度	目標年度	事業実施期間
2. 取組振興山村名	小国町	平成29年度	平成32年度	平成30年6月1日～平成31年3月20日
3. 事業費(うち国費)	5,997,876円(5,583,736円)			
4. 第三者氏名	関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科 客員教授 勝瀬典雄、山形銀行 小国支店長 長沢伸一、山形中央信用組合 小国支店長 竹田淳			
5. 事業評価				
総合評価				
○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A)	(B)	○関係団体と連携し、住民を巻き込みながら、積極的な事業展開がなされている。 ○継続的な事業実施により、平成32年度の数値目標達成のために着実な成果が上がってきている。	
① 取組状況				
○ 目標の達成に資するための取組が行われたか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A)	(B)	○地域内外での積極的なPRや、販路拡大を見据えたマーケティングが行われているが、ロットが揃わず商談ができない製品もあるため、生産体制の整備もフォローしていく必要がある。 ○パイヤーとのつながりが重要であり、積極的に商談会等へ参加しているが、商談会後の事後フォローについてもしっかり把握していく必要がある。	
② 事業実績				
○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A)	(B)	○継続的な事業実施により、平成32年度の数値目標達成のために着実な成果が上がってきている。	
③ 実施体制				
○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		(評価理由及び助言等のコメント)		
評 価 (該当に○)	(A)	(B)	○町が主体ではあるが、関係団体や地域住民、事業の試食者等も含め、延べ651名の参加者を得るなど十分機能した体制的で事業が実施されている。	
④ その他				
・参加事業者がやや固定化してきている傾向にある。 ・補助事業終了後の事業者の自立支援に向けて、別事業で体制整備を行っている地域総合商社との連携策を検討しておく必要がある。				

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

学識経験者等第三者について

小国町

<p>1. 第三者の氏名、住所</p> <p>① 氏名： 勝瀬 典雄(かつせ ふみお) 長沢 伸一(ながさわ しんいち) 竹田 淳(たけだ あつし)</p> <p>② 住所： 東京都杉並区桃井1丁目27-11-301 山形県小国町大字小国町字町北壱158番地 山形県小国町大字岩井沢840番地</p>	<p>3. 第三者の経歴</p> <p>勝瀬 典雄(かつせ ふみお)</p> <p>H23.4～ 兵庫県立大学 大学院 経営研究科 客員教授 H26.6～ 農林水産省 6次産業化中央サポートセンター プランナー H31.4～ 関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科 客員教授</p> <p>資格等 情報処理技術者 ITコーディネータインストラクター</p>
<p>2. 第三者に選定した理由</p> <p>勝瀬 典雄(かつせ ふみお)</p> <p>国6次産業化中央サポートセンターにおける6次産業化プランナーとして、近年の本町における6次産業化に関する各種事業に関与しており、現状を熟知している。 専門家ならではの知識や知見を有しており、事業の進め方や効果などについて、適切な評価とアドバイスが得られる。</p> <p>長沢 伸一(ながさわ しんいち)</p> <p>本町に所在する金融機関である山形銀行小国支店の支店長。 地元に着した金融機関であり、地域の経済状況を熟知している。金融機関ならではの目線で、事業の効率性や採算性を評価することができる。</p> <p>竹田 淳(たけだ あつし)</p> <p>本町に所在する金融機関である山形中央信用組合小国支店の支店長。 地元に着した金融機関であり、特に地域の商工業者の現状を熟知している。金融機関ならではの目線で、事業の効率性や採算性を評価することができる。</p>	<p>長沢 伸一(ながさわ しんいち)</p> <p>H30.2～ 山形銀行小国支店 支店長 H26.10～ 山形銀行東青田支店 支店長 H21.10～ 山形銀行米沢支店 次長</p> <p>竹田 淳(たけだ あつし)</p> <p>H30.4～ 山形中央信用組合小国支店 支店長 山形中央信用組合本店営業部 次長 山形中央信用組合寒河江支店 次長 H9.4～ 山形中央信用組合入組</p> <p>資格等 山形大学認定 産学金連携シニアコーディネーター</p>

平成30年度

事業開始
2年目

山形県西置賜郡小国町

小 国 町

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

○事業の実施状況

<地域ブランド戦略検討事業> 4回

白い森まるごと塾1回、住民試食会2回、雑穀に関する研修

◎主な概要 白い森まるごと塾 (Vol.5)

「商品開発と販路拡大について」&住民試食会

日 時：平成30年12月19日（水）

<第1部>特産品づくり講演会 <第2部>地域商社講話

<第3部>住民試食会

会 場：アスモ3階多目的ホール及び1階催事場

講 師：(株)生産者直売のれん会コンサルティング事業部部長 伊藤 拓哉氏、小国町地域総合商社CSO 渡邊創一氏

内 容：<第1部>特産品販売に関する講演会

<第2部>地域総合商社の設立に向けた取組みについての講話

<第3部>住民試食会

参 加 者：<第1部及び第2部>52名（町内特産品販売関係者及び生産者ほか）<第3部>80名（上記参加者及び一般住民）

結 果：のれん会の講演は2回目。商品開発の定義や営業

ツールとの関係、バイヤーが求める商品、「売り場」の重要

性、ターゲットを意識した商品企画について学んだ。地域総

合商社講話については、CSO着任挨拶と今後の事業展開につ

いて講話をいただいた。住民試食会には、町内5事業者が参

加し、開発中の商品の試食、アンケートを行うとともに、白

い森ラッピングコーナーを配置し、町民に評価をいただいた。



<地域ブランドプロモーション事業> 10回 東京、山形、新潟ほか

◎主な概要 ふるさと交流ショップ台東出展

日 時：平成31年1月17日（木）～1月22日（火）

会 場：東京都台東区浅草4丁目36番5号 ふるさと交流ショップ台東

参 加 者：白い森ブランド戦略室4名、おぐにまるごと農商工ネットワーク協議会員4名

結 果：1)特産品の試食及び販売 2)白い森おぐにのPR

（商店街でのアナウンス、プロモーション動画、観光パンフ等

による）3)白い森ロゴマークノベルティ（スマートフォン対

応手袋）の配布（配布実績 670着）

事業成果：初出店であったが、台東区担当の全面的なバック

アップもあり、スムーズに運営することができた。当初は土日

の混雑を想定してスタッフを配置したが自治体が入れ替わる初

日の木曜日が大変混雑したため、準備の人手確保も含め次回は

スタッフの配置について見直したい。長期間にわたり、協議会

員が協力し合い、自分たちの特産品が、確実に売れていくこと

で、自信を持つとともに、改めて、売る相手（ターゲット）や、

売場所の重要性を感じる事ができた。



<特産品ブランドプロジェクト事業>

各種PRチラシ、特産品ブランド化業務委託、アルバイト雇用

◎主な概要 特産品ブランド化業務委託

雑穀ソフトクリーム販売促進業務委託

調査期間：平成30年7月27日から平成31年3月20日

事業 者：(株)生産者直売のれん会

内 容：市場調査をベースにお土産品開発検討会を設置、開

催（6回開催）また、お土産品開発検討会で方向付けされた雑

穀ソフトクリームの商品化試作

事業成果：お土産品開発検討会を開催し検討を行ってきた結果、

新産産わらび粉を使用した「わらび餅」を中心に進めてきたが、

生産、管理体制が未整備であり、次年度以降の検討課題とした。

道の駅のリニューアルのタイミングをとらえ、即効性のある商

品として、雑穀のソフトクリームを商品化することとした。

小国町を代表するようなキラーコンテンツ

- ・わらび餅
- ・「しいたけ」「きくらげ」等のキノコ類
- ・たかきびアイス



○今後の事業構想

・地域ブランド戦略検討事業については、3年間取り組んできた商品開発やイベントプロモーションの結果を集約しながら、町民参加型の白い森ブランド祭を開催するなど、特産品の地域ブランドづくりに対する住民の関心や意欲を高めながら、住民とともに共有していく。

・地域ブランドプロモーション事業については、地域内外のイベントに継続出展し、山菜やきのこ、米や雑穀の新しい料理や加工品を出展・PRし、試食やアンケート等を実施する。東京若葉台のマンション管理組合の秋のイベントに継続出展するとともに、より交流を深め、継続的な取引を促すための相互交流を企画し、小国の山菜やきのこ、米や雑穀のPRを行う。さらに、昨年きっかけづくりを行った向ヶ丘遊園地管理組合についても、今後の交流事業の展開方法や、長期的な農産物の取引のしくみづくりについて、管理組合と進め方を確認する。

・特産品ブランドプロジェクト事業については、前年に開発した雑穀ソフトクリームの販売促進を行うとともに、課題となっているわらび餅の開発を継続するとともに、既存商品の改良やお土産品等（お土産品や小国特産ギフトセット）の開発に関するノウハウや技術指導について、専門業者に業務委託を行い、企画提案を受けながら、商品開発を進める。また、これら開発した商品の町内流通のしくみづくりの企画・提案を行う。（道の駅、町内交流施設、町内飲食店）

(別紙3)

平成 年 月 日

事業実施主体名
代表者名

殿

地方農政局長等

平成〇〇年度農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業の改善について

貴団体における平成〇〇年度農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の取組について、低調であると評価されたため、農山漁村振興交付金実施要領(平成28年4月1日付け27農振第2326号農林水産省農村振興局長通知)別紙3の第7の3の規定に基づき下記のとおり通知するので、改善計画を立てるなどにより目標達成に向けて改善を図られたい。

記

1. 事業名(事業採択年度)
2. 目標達成に向けた指導・助言等

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名: ○○市町村又は、○○協議会

平成 年 月 日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要
○○県 ○○町	○○年度	

1. 第三者の意見及び、目標達成に向けた指導・助言等

--

2. 低調と評価された内容・要因

--

3. 目標達成に向けた方策

--

4. 改善状況

--